

## 第7回議会報告会 グループディスカッション （模造紙の記載内容）

### 子育てしやすいまち日本一を目指して（市民交流センター 昼の部①）

#### 1. まず出産 産婦人科の誘致を！

##### 課題

- ・近いところにあるのが良い（安心できる）
- ・大町市では開設
- ・周辺でもなくなっており、選択の余地がない（松本市に集中）
- ・助産士制度の活用は（産科医との連携が必要）
- ・責任問題もあって医師自体が減少
- ・母体自体の健康状態が課題ともなっている

##### 結論

- ・現状では大変難しい問題。松本広域で対応策を考えていくことが必要

#### 2. 子育てについて

- ・産むはいいが生活面（経済的）での議題あり
- ・サンサン子ども園的な施設が必要（認定子ども園）
- ・核家族化が進み、祖父母に見てもらえる機会が減少
- ・育児に関する相談場所が必要
- ・あずかってもらおう施設での遊びの工夫が必要
- ・家庭での親のしつけが課題

#### 3. 学校生活等での課題は

- ・幼児期からの教育しつけが将来につながる（いじめ等を含め）
- ・スマホ（ゲーム等）を一時期止めさせたら学力が上がった実例もある
- ・塩尻市では0才～18才までの教育支援があるが、勤め先との関係もある
- ・ゲームにしても遊ぶ時間を限られれば良いのではないか。決めごとの問題
- ・児童館の活用について具体的には考えていない。クラブとの関係 情報が必要

### 子育てしやすいまち日本一を目指して（市民交流センター 昼の部②）

- ・幼い子 子育て支援センター
- ・継続支援できる
- ・行政により違うサービス 充実している
- ・あそぼ ウィングロード市外からも来る
- ・支援センター えんぱーく
- ・北部支援センター（老朽化）

- ・ 広丘センターにかつて日の出保育園内に専門の先生常駐、雨の日も行ける  
便利で助かった 県内最初
- ・ 公園が欲しい
- ・ 駐車場遠い
- ・ 整備されていない
- ・ 小坂田公園 木陰ない（幼い子を連れて行かれない）
- ・ 北部公園 吉田地区公園（奈良井川沿い）子どもが遊んでいる
- ・ 芳川公園（松本） 水遊びできる
- ・ 小坂田プールの閉鎖
- ・ 原新田（水辺あり）
- ・ アクセス難しい（わかり易い看板や道の整備が必要）
- ・ 水辺掃除ができていない 不衛生
- ・ 草刈り ex ボランティアは？周辺の人、高齢者？ 一斉清掃日に集中して
- ・ 教育資金の支援
- ・ 奨学金 松大 130万/年 市の基金（2億）
- ・ 県で給付型←貸与から
- ・ 産婦人科医（産科医 5000万-1億が必要）
- ・ 出産施設がない
- ・ 広域で共通に（全国的な流れ）
- ・ 健診市内→出産は拠点病院（共通診察ノート）
- ・ 里帰り出産ができない現状
- ・ 助産院はあるのか？助産士
- ・ 助産院メリット 家族ぐるみで参加、立会→病院と連携するしくみづくりを模索して
- ・ 出産は安心感（当事者） 充実した設備と人→高齢出産、極小児
- ・ 経験者…助産士さんの充実も 安心感
- ・ 産後ケア（介護サービス 家事サポート）まず健診に来られない人対象

## 子育てしやすいまち日本一・人口増を目指して（市民交流センター 夜の部①）

- ・ 出産産婦人科の誘致を
- ・ 出産 授産施設、産科医ない
- ・ 里帰り出産ができない
- ・ 共通診療ノート
- ・ 広域で包括的対応←→助産師（院）
- ・ 近くに専門医が必要
- ・ リスクが高い、母体の変化
- ・ ファミリーサポート 料金が高い（補助ができないか）
- ・ 託児の施設、費用

- ・家事サポート 障がい者←→保育者、産院（ろう者 市に申請）
- ・地域の中で子育てサポート（コミュニケーションがなくなっている）
- ・不妊治療—高額 本市は効果が高い
- ・市 母親を孤立させない
- ・人口増

## 子育てしやすいまち日本一・人口増を目指して（広丘支所）

### お金 医療

- ・医療費を安くしてほしい
- ・県全体で取り組まないといけない
- ・現在中学までは無料→18歳までにしてほしい
- ・病院も近くにあると良い

### 住

- ・塩尻は下水道普及率高いので良いとのこと
- ・学校が近い良い、治安が良いところに住みたい→広丘駅の夜の無人が不安
- ・公営住宅の活用を
- ・男性の育児参加
- ・仕事の安定（収入）
- ・仕事の時間（長時間）
- ・結婚年齢が遅くなっている
- ・子どもが保育園に入れるか不安
- ・下の子育休中に上の子が保育園を退園しないといけない。これを解消してほしい
- ・市内産科がない 診察は可—出産はできない
- ・共通診察ノート…広域のとりくみ（ネットワーク）
- ・医師はチームを組んで
- ・若い人達が提案の声、困った声、つぶやきを発信できる場を作ってほしい
- ・公園 近くにあるので活用している
- ・森づくり 散歩ができるので良いとの声ある。さらに皆で植えてふやせないか
- ・地域の協力

## 塩尻ブランドの生かし方（市民交流センター①）

- ・ワイン巡りの際手話通訳がなかった。手話通訳が観光に同行いただければありがたい
- ・私は以前引っ越してきた。当初は何が有名かわからなかった。新しく越した人にわかる

ようにしていただきたい

- ・ 障害者や高齢者に優しい観光イベント
- ・ 転入してきた方に塩尻の良さが分かるような工夫
- ・ 駅とか人が集まる場所に塩尻ブランドを知らせる公共サインの工夫
- ・ 若い人に分かりやすいように
- ・ ワインだけではなく、お酒が飲める人にも PR ができるようなブドウや漆器を PR したらどうか
- ・ 子供が喜ぶようなイベント（興味が持てる）を計画したら
- ・ 高ボッチ高原に行くバスの運行を考えて、又宿泊施設も
- ・ 奈良井宿、平沢の冬の観光の充実
- ・ 奈良井宿以外の宿場の PR（本山、洗馬、塩尻等）
- ・ 観光に欠けるものとして宿泊施設
- ・ ネットの検索で塩尻ブランドが「しおじり」で出来るように
- ・ ガイドブックに塩尻を載せて欲しい

## 塩尻ブランドの生かし方（市民交流センター②）

- ・ レタスアイスはどうなった
- ・ 知りたい→商品を売り込んだ評価は？  
みんなに報告したい by ブランド担当課 ex 銀座 NAGANO
- ・ 来場者以外→フィードバック農家などへ将来的にプラスの実績をみたい
- ・ おもてなし 満足度
- ・ ex 東御など勢いがある戦略
- ・ 市民へフィードバック
- ・ 塩尻は特産より住みやすさ
- ・ 松本や安曇野より弱い 取られる
- ・ ワイン→塩尻をイメージできるように
- ・ 中山間地域資源のグループで活性化。空き商店活用
- ・ 点から線
- ・ 若い人の考え
- ・ 素材を活かしきれていない…もっと発展性を
- ・ PR 方法、ターゲット 若年層・高年齢層へも PR すべし
- ・ 塩尻の認知度→ほこりが持てる→ブランド化
- ・ 特産品のいいところを市民が言えるのか知りたい。

## 広丘（北部圏域）のまちづくり（広丘支所①）

- ・拠点（公共）を囲む様なまちづくり（支所の所在地が分かりにくかった）  
→国道県道から入りやすい（分かりやすい）
- ・市の人口の二分の一の居住地→えんぱーくと比較すると若者が集まる 高齢者が集まる
- ・年齢層を広く、気楽に立ち寄れるスペースづくり 喫茶 ロビー
- ・この様な集いなど…多い市民の声を集めるための告知方法 参加者が少ない
- ・スポーツジムのスペース
- ・短歌館との連携 文化・歴史・経済などと連携した拠点
- ・商店街との連携
- ・散策、買物客など（駐車場が必要 P&Rにならないように）
- ・高校生・子供達が勉強するスペース《居心地の良い空間》
- ・松本山雅を活用したにぎわい創り  
広丘西口・アルウィン口…シャトルバス発着点（民地も利用）
- ・高層化し、エプソンの寮にして人口増にぎわい創出する（エプソンのスポンサー）
- ・県住の跡地を民間に販売し、個人住宅を増やす
- ・建物の周辺整備…公園、短歌館、郷原街道（歩道の凸凹の解消）\*通学路
- ・図書館がえんぱーくのように活用できれば良い  
（フリースペース、勉強できるスペース、自由に使えるスペース）
- ・商工会との連携

## 広丘（北部圏域）のまちづくり（広丘支所②）

- ・フリースペースを広く 市民の交流の場所が必要（イス席で）
- ・子どもの居場所
- ・児童館について、今は2カ所に分かれているがどのような考えか
- ・夏休みの行事 150人でぎゅうぎゅう 子ども達がふえている
- ・子育て支援センター 子ども達が外遊びできるようにしてほしい
- ・通学路の除雪が課題 郷原街道
- ・スケジュールについて、いつ頃市民に示してくれるか H28年度後半
- ・現在部屋が不足、クラブ活動など利用者多く部屋がとれない
- ・ロードレース駐車場満車
- ・今 56台でいっぱいになってしまう。計画の 60台ではとても少ない。150台位は必要
- ・広丘駅前（東口）利用をできるようにできないか 今 2500 m<sup>2</sup>→5000 m<sup>2</sup>に広がる
- ・市の説明では3倍位と聞いていたが少なくなってしまった。Pのスペース拡大は重要
- ・支所利用者から パッチワーク教室を行っているが、Pの利用者が多く出入りが大変
- ・工事はいつから始まるか？ H30年からスタート
- ・広丘駅から短歌のまちへの道・文化の道があるといい。連携を持ったまちづくりを

- ・多様な世代が交流できる施設